

令和4年度学校経営の重点等

1 学校経営の重点

(1) 教育目標

- 1 校訓「自治・協同・敬愛」に基づく教育を推進し、知・徳・体の調和のとれたところ豊かな人間を育成する。
- 2 個に応じた教育により、自ら学ぼうとする態度を育成し、一人ひとりの能力・適性に
応じた進路の実現を図る。
- 3 地域の教育力を活かした教育活動を推進し、地域から愛される開かれた学校づくりを進める。

(2) 学校経営の重点

ア キャリア教育を支援する総合学科における取組の推進

- (ア) 個々の生徒に応じたキャリア形成を目指し、生徒の主体性を育む教育活動を展開する。
- (イ) 学校・家庭・地域との連携を図り、生徒の「基礎的・汎用的能力」の育成を目指した自己有用感につながる様々な体験活動をとおしてキャリア教育を推進する。
- (ウ) 今年度から実施される新学習指導要領を踏まえ、魅力ある学校づくりを進めるための将来ビジョンを構築する。

イ 生徒の可能性を広げ、生徒一人ひとりの能力・技能を高める指導の展開

- (ア) 個々の生徒を理解し、豊かな人間性を育む教育活動を展開する。
- (イ) 生徒の自己実現を図るため、主体的な学習態度と確かな学力を育成する。
- (ウ) 生徒・教員のふれあいと生徒の内面に対する共感的な理解に基づく生徒指導を推進する。

ウ 学校の組織力の強化及び教職員としての実践的指導力の向上

- (ア) 教育の専門家として、最新の知識・技能を身につけ、更なる資質・能力の向上に努める。
- (イ) ワーク・ライフ・バランスの実現を目指し、業務の効率化と勤務時間の適正化を図る。
- (ウ) 『友と共に明日を拓く』をスローガンに、教職員・生徒が「チーム三木東」として一丸となり学校を挙げて教育活動に取り組む。

(3) 本年度の重点取り組み事項

ア キャリア教育の充実

(ア) 進路保障につながる実践内容の検討

進路保障につながるコミュニケーション等の力を育成するために実効性のある内容を研究し実践する。

そのために、「キャリア探究Ⅰ」・「総合学習」・「課題研究」などの授業において「自分の考えを発信する」ことができる力を身につけるためのプログラムを実施する。また、それらの内容を調査・実験・実践・作品制作にまで拡大させることにより総合的な学びのレベル・アップを図り、生徒の学力向上、進路実現を支える指導につなげる。

(イ) 充実した進路指導體制の構築

進路講話や進路ガイダンスの時期・プログラム・内容を、「キャリア探究Ⅰ」「総合学習」に関連させ、3年間を見通した進路指導計画を立て、実践する。各部、各年次で協力して情報の共有化を図るとともに、指導内容の検討・改善を進める。

「進路の手引き」を積極的に活用し、面談週間等で、担任が面談をしやすい環境を整備する。生徒との個人面談を充実させ、全教職員で生徒を育てる指導體制を確立する。

(ウ) 職員研修会の実施

総合学科としての教育効果を上げ、望ましい生徒を育成するため、全

教職員が各年次の取組を理解し互いに連携するための研修会を継続して実施する。また、授業、行事、部活動などのあらゆる機会をとおしてキャリア教育を進める視点の共有化を図る。

イ 学力の向上

(ア) 週末課題の継続的实施と学習習慣の確立方策の推進

勉強方法がわからない生徒をなくすための実践を継続して行う。1年次は新入生オリエンテーションにおいて、2年、3年次では「進路講話」などを通して学習方法と目標を具体的に提示する。

学習習慣と目標設定の定着をはかるために、補習等のさらなる内容充実と参加希望生徒の拡大を図るとともに、日頃の学習活動の中で継続的に取り組む。

各年次の課題に応じた週末課題に継続的に取り組ませる。模擬試験の事前事後学習を徹底することで、定期考査に加え、模擬試験についても学力向上に向けた目標として意識させ、学習習慣の定着を目指す。

(イ) 「アドバンスクラス」に対する補習、行事及び進路講話の充実

3年後を見据えた進路指導計画を立て、必要に応じて的確な補習等を実施する。

英語検定や漢字検定等の資格取得等を推進することによって、個人の進路学習に自信を持てるよう工夫して運営する。さらに、次のステップに意欲的に取り組んでいく態度を養う。

「進路講話」を定期的実施し、進路意識を高める。「アドバンスクラス」の活動の様子を校外に発信するとともに、指導から得られたノウハウを全校生徒への指導に生かすことで、学校全体が学習に対して、さらに意欲的に取り組む雰囲気醸成する。

(ウ) グローバル化に対応した生徒の育成のため、豊かな語学力やコミュニケーション能力を育成する。

ウ 教員の授業力の向上

(ア) 公開授業・研究授業の充実

公開授業週間を年2回設け、選択科目や総合学科への理解を深める一助とする。

各教科の研究授業を計画して実施し、互いの指導力向上に努める。また、映像による記録を活用し、意見交換を活発に行い、実効的なものとなるよう努める。

(イ) 評価方法の工夫・共有化

しっかりとした観点別評価を行なえるよう各教科で評価について検討を重ね、目に見える形で実施する。

(ウ) ICT活用指導力の向上

BYOD導入による生徒一人一台端末環境を有効に活用できるよう、研修等あらゆる機会を通して教職員のICT活用指導力の向上を図る。

(エ) 生徒による授業評価アンケートの実施

1学期末および2学期期末の2回以上、生徒による授業評価を実施する。また、各教員が2回分の結果を自己分析し、各々授業改善に積極的に役立てる。

エ 生徒による活動および生徒指導の充実

(ア) 部活動の充実

教員全員による部活動DAYを設け、全教員が積極的に部活動に参加し、指導力を発揮し活動をさらに充実させる。

また、1年次入学当初の体験入部期間を工夫して設定するとともに、興味を持って楽しく部活動に参加させる工夫など、部活動の活性化につながる試みを展開する。

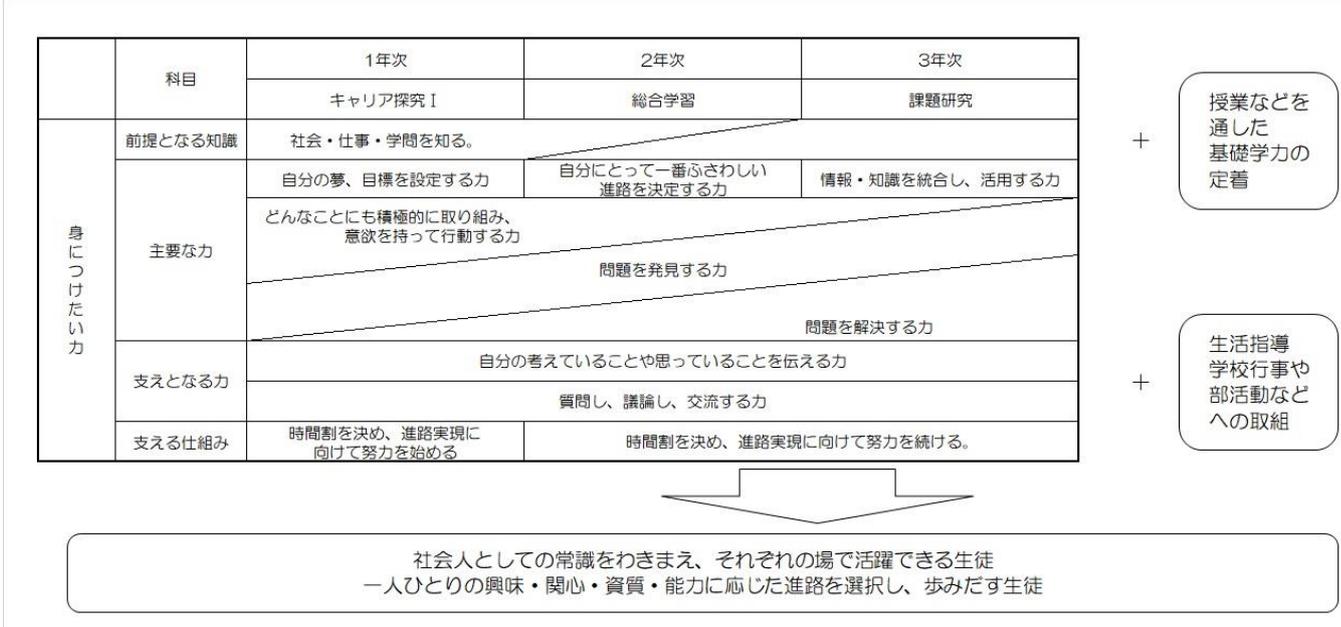
(イ) 通学路清掃及び校内美化の充実

学校周辺の道路等も通学路清掃の区域として組み込み、学校周辺・通学路からゴミをなくす。また、整備委員以外の生徒にもボランティアを呼びかけ、月1回程度の志染駅までの清掃活動を実施する。

校内美化を推進するために、整備委員の清掃用具のチェック・管理などを徹底する。

- (ウ) 登下校時のマナー意識向上及び服装指導の徹底
朝の職員立ち番などを通して生徒のマナー意識の向上を図る。制服のズボンやスカートなどの着こなし指導に、全教職員が協力して取り組む。
- オ 広報活動の充実
 - (ア) 学校案内の刷新と各種通信及びホームページの充実
学校案内は内容を検討し、必要に応じて改訂する。各種通信は少なくとも毎月1回程度の発行を目指す。
 - (イ) オープン・ハイスクールと学校説明会の効果的な運営
毎回、視点を工夫して開催し、本校のあらゆる教育活動を、幅広く校外に発信し、全校を挙げて運営する。特に、生徒を前面に押し出した運営に努める。
複数回にわたり参加する中学生、保護者、中学校教員にも配慮し、様々な本校の姿を見てもらえるように内容を工夫する。
 - (ウ) 各種発表会等における外部への効果的な情報発信
要望に応じて、学校紹介及び発表会等の画像を公開する。学校紹介ビデオを作製し、広報活動に積極的に活用する。

カ キャリア教育のねらいと三木東高校での3年間で育てたい生徒像



2 教科指導及び生徒指導（特別教育活動を含む。）の重点

(1) 教科指導

- ア 評価の観点を意識しながら指導を行うことにより、生徒の学習状況を的確に把握・評価し、指導内容の改善と充実を図りながら、基礎学力を確実に定着させていく。
- イ 生徒の学力向上を期して、補充的・発展的な学習等を適切に授業に取り入れていくために、計画的な研究授業を実施し、教員の指導力の向上や指導方法の共有化を図る。
- ウ 自らのキャリアを意識した主体的な科目選択を重視し、個に応じた学習指導を徹底することにより、自立して未来に挑戦する態度と生きる力を育む。
- エ 生徒による授業評価を行い、生徒の視点を授業に取り入れ工夫をすることで、魅力的な授業を展開し、生徒の主体的に学ぶ意欲・態度を育成する。
- オ 充実した情報通信環境を積極的に授業等で活用することで、高度情報通信社会に主体的に対応するための情報活用能力を育成する。

(2) 生徒指導（特別活動を含む）

- ア 人間味あふれるふれあいを通して心のきずなを深め、生徒一人ひとりの内面を理解し、生徒が持っている長所や可能性を引き出し、自立心や自律性を育成する。

イ 生徒一人ひとりの個性を伸張し、友情を深めるなど、好ましい人間関係を育て将来の目標の達成に必要な知識や技能を身に付けさせるため、自己実現を目指した指導を充実させる。

ウ 基本的な生活習慣や規範意識、人間関係の基本となる挨拶の習慣や日常のマナー向上について、家庭や地域との連携を密にし、いじめや暴力行為等、問題行動の未然防止、早期発見、早期対応に努める。

エ 本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止に向けて指導体制を整備するとともに、生徒・保護者等への周知を図り、いじめを許さない学校文化を創造する。

(3) 進路指導

ア 多種多様な総合学科での学びを活かし、生徒個々の自己実現を目指した進路指導を充実させる。

イ 進路ガイダンスや職業別説明会などを継続して行うことで、生徒の進路意識を高めるとともに大学や専門学校、企業等についての理解を深める。

ウ 総合型選抜入試や学校推薦型選抜入試、一般選抜型入試等の様々な入試形態を知ること、目標を明確にし、大学入学共通テストや一般選抜型入試まで粘ることができる強い精神力を養う。

エ 小論文や面接指導については、3年次と進路指導部を中心に、全教員がその指導に当たる体制をつくり、より専門性を活かした指導の充実を図る。

オ アドバンスクラスについて、補習を定着させることで生徒の学習意欲を高めるとともに、生徒との個人面談や進路講話を充実させ、年次と進路指導部が協力しながら、3カ年を見越した進路指導の充実を図る。

3 健康管理に関する指導の重点

(1) 学校保健を充実し、生涯健康の基礎を培う。

(2) 学校安全を徹底し、生命尊厳の精神・事故防止能力を養う。

4 研究テーマ

(1) 総合学科における学習指導と新教育課程のあり方について研究する。

(2) 「産業社会と人間（キャリア探究Ⅰ）」及び「総合的な探究の時間（総合学習）」を核としたキャリア教育の推進による学校づくりを研究する。

(3) 「高校生ふるさと貢献・活性化事業」及び「高校生就業体験事業」において、地域との連携を重視し総合学科としてあるべき体験活動の実践的な研究を行う。

(4) 生涯学習社会や高度情報通信社会に対応できる教育について研究する。

(5) 人権尊重の精神を基盤として、「共に生きる社会」の構築に向け、主体的に取り組む意欲や態度を育むための人権教育のあり方について研究する。

(6) 効果的な特別支援教育を推進するための校内体制と研修のあり方について研究する。

5 高校生ふるさと貢献・活性化事業で実施する内容

(1) 地域での人とのつながりの再生

ア 毎日、学校周辺の通学路を清掃する「地域クリーン活動」に取り組むことにより、地域の環境美化に努め、美しい町づくりを進める。

イ アントレプレナー選択者が、三木市役所の協力を得て「三木金物まつり」に出店する。

ウ 「邦楽」選択者が、三木市ふれあい文化祭でお琴を演奏する。

エ 「和の文化と茶道」選択者及び茶道部員が地域イベントでお点前を披露する。

オ 「介護実習」選択者が、三木市内のデイサービスセンターで実習を行い、介護技術の

実践やコミュニケーション方法を学ぶ。また、レクリエーション交流も行い、生徒によるオリジナルレクリエーションを提案する。

(2) 震災などから得た「支え合いの大切さ」

ア 災害復旧に向けての募金活動及び「あしなが育英会」への募金活動を実施する。

イ 障害者施設での吹奏楽部による「ボランティア演奏会」を行う。

ウ 近隣のデイサービスセンターに実習訪問し、レクリエーション発表を通じて、施設の利用者の方と交流を図る。

エ 近隣の幼稚園・保育園を訪問し、レクリエーションによる交流を行う。また、幼稚園児を武塚祭体育の部に招待し、本校生と合同演技を実施する。

(3) 地域づくりプロデュース等へ協力

「アントレプレナー」選択者を中心に、金物の町三木のPR活動や地元特産の山田錦・ぶどう・ハーブなどを活用した商品開発・販売活動を行う。

6 高校生就業体験事業で実施する内容

インターンシップの実施

2年次の就職希望者には地域企業で、幼児教育系への進学希望者には地域の幼稚園等でインターンシップを実施し、望ましい職業観・勤労観を育成する。各生徒の報告資料を冊子にまとめるとともに報告会を行う。

7 インスパイア・ハイスクール事業で実施する内容

(1) 職業人インタビューの実施

1年次において、各生徒が興味・関心のある事業所等を訪問し、将来の進路選択の参考にする。各生徒の報告資料を冊子にまとめるとともに報告会を行い情報の共有化を図る。

(2) 私たちのミライ講演会の実施

本校卒業生（今年度は豊田自動織機委TCのT氏）を講師に招き、全校生を対象にして、その道のプロとして成功するまでのストーリーや努力されたこと、今後の目標等について講演をしていただき、そこから生徒一人一人が自らのライフプランの設計につなげられる機会とする。

(3) 三木市・三木東高校タウンミーティング

3年次課題研究の「地域貢献」をテーマに研究している生徒を中心に三木市役所企画調整課・子育て支援課・商工振興課・介護保険課等の各課長による「三木市活性化協議会」を開催する。本校生の3年間の学びから三木市活性化に繋がるアイデアを協議し、持続可能な取組へ発展させる。

(4) 本校オリジナルワークブックの積極的活用

本校オリジナルのワークブック1年次「キャリア探究Ⅰ」、2年次「総合学習」、3年次「課題研究」を活用し、3年間を通して継続的且つ一貫性のあるキャリア教育を実践する。

(5) 「後輩のみんなへ」冊子作成

3年次生が、自分の高校生活やこれまでの自分の生き方等について書いたものを冊子にまとめ、新1年次生を含めた全校生に配付する。「後輩のみんなへ」冊子を通して、各生徒が自分の生き方を真剣に考え、見直す機会へと発展させる。